

令和の新タバコ対策

タバコ新時代にどう対処するか

I Q O S に代表される加熱式タバコは、日本が世界シェアの9割以上を占めており、タバコ対策の脇役だった日本が世界の注目の的になっていきます。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に、改正健康増進法、東京都受動喫煙防止条例が施行されます。飲食店などの施設は、これらの法令にあと1年足らずで対応しなければなりません。

すでに先進的な地域では、専門家、行政、飲食店業界などが協働して、受動喫煙対策に取り組んでいます。

本シンポジウムは、新しい時代のタバコ対策を担う3人の専門家が登壇し、タバコ新時代にどう対処すべきかを話し合います。

令和はまったく新しいタバコ対策の時代です



NO SMOKING

プログラム

タバコ新時代の温故知新 平山論文から改正健康増進法まで

国立がん研究センターがん対策情報センター がん統計・総合解析研究部 部長

片野田 耕太

タバコ対策新時代 ー新型タバコ問題への対処方法を考える

大阪国際がんセンター がん対策センター 疫学統計部 副部長

田淵 貴大

新時代の受動喫煙対策 ーケムランと社会協働

大阪医科大学 研究支援センター 医療統計室 准教授

伊藤 ゆり

総合討論

令和元年

日時 午後 5 時 ~ 7 時

8月23日 金

場所 大阪国際がんセンター
1階 大講堂

参加費無料
事前申し込み無し



片野田 耕太

1996年 東京大学法学部卒。

2002年 医学博士(東京大学大学院:脳神経医学専攻)取得後、国立栄養研究所勤務を経て

2005年 国立がん研究センター入職、以来たばこ研究に従事。

2016年 厚生労働省喫煙の健康影響に関する検討会報告書を編集責任者としてとりまとめた。

近著に『本当のたばこの話をしよう 毒なのか薬なのか』

(日本評論社)



田淵 貴大

2001年 岡山大学医学部卒。

2011年 医学博士(大阪大学大学院:社会環境医学専攻)取得後、大阪国際がんセンター勤務(現職:がん対策センター疫学統計部 副部長)。現在、タバコ対策や健康格差の研究に取り組んでいる。

近著に『新型タバコの本当のリスク アイコス、グロー、プルーム・テックの科学』(内外出版社)。



伊藤 ゆり

2002年 大阪大学医学部保健学科卒業後、同大学院にて保健学修士・博士を取得。大阪国際がんセンター勤務を経て、大阪医科大学研究支援センター医療統計室准教授(現職)。専門はがん疫学、健康格差、医療統計。完全禁煙飲食店応援サイト・ケムラン主宰。(https://quemlin.com/)

東京都文京区社会福祉協議会と協同で『みんなでつくるケムランガイド in 文京区』により住民とともに飲食店における受動喫煙対策に取り組む。



(https://quemlin.com/)



交通案内

地下鉄「谷町四丁目駅」北改札口から1-A 出口方面へ進み徒歩約5分

谷町四丁目駅から地下連絡通路を延長し、駅から雨に濡れずに直接センターまでお越しいただけます。

地下鉄「天満橋駅」南改札口から谷町筋を南へ行き谷町2丁目交差点を左折徒歩約7分

近隣地図



お問い合わせ先

がん対策センター 疫学統計部 副部長 田淵 貴大 (内線: 5512)